

発行者: 神奈川県三浦半島宮陵会 企画・広報委員会

2016年3月12日発行

事務局: 横須賀市浦賀丘2-8-19 Tel: 046-843-0600

## 平成28年新年会・記念講演会開催

記念講演会と懇親会の2部構成で行われた平成28年神奈川県三浦半島宮陵会の新年会が1月31日(日)、セントラルホテル横須賀で開かれ、会員ら過去最高の70人が集まった。

記念講演会に先立ち、昨年6月に就任した鈴木和夫三浦半島宮陵会会長(昭和46年法律卒)が、ユーモアを交えながら挨拶を述べた(内容は別掲)。

引き続き行われた記念講演会は、文芸評論家で学校法人神奈川県立神奈川大学常務理事の小林孝吉さんが「内村鑑三と日本近代—明治維新を生きた人たち」と題して講演した。

新聞記事で会員以外に聴講を呼びかけたことから、関心のある地域の人々が開会前30分に来場し、会員とともに熱心に耳を傾けた。(記念講演会の要旨は3頁)



2016年三浦半島宮陵会新年会 於セントラルホテル横須賀 1.31

懇親会は最高齢の川瀬元夫さん(写真:84歳・昭和31年経済卒)の乾杯の音頭で始まった。

女子学生や若い卒業生も数多く来場し、一段と明るい華やかな雰囲気の中、懇親会となった。



アトラクションは、鈴木会長の紹介で駆けつけてくれた、カントリーウエスタンの演奏が会場を盛り上げた。

## 鈴木和夫会長の挨拶



挨拶する鈴木会長

私は「ぶれない三浦半島宮陵会」を掲げます。

意味するところは「同じ方向に向かって出来るだけ真っ直ぐ歩みましょう」ということです。

三浦半島宮陵会の会員

は約130人。そのうち会費納入者が約90人です。

今年は若手の会員を増やそうと、内藤正久副会長(昭和51年機械卒、宮陵会本部理事)が中心となり、卒業後7年以内の三浦半島地区に住むOB、OGに呼びかけたところ10人の新しいメンバーが来場してくれた。

これからも会員を増やし、三浦半島宮陵会の充実を図るべく取り組みます。引き続き皆さまのご支援とご協力をお願い致します。



カントリーウエスタンの演奏をする「タイムトラベラーズ」の皆さん

最後は、いつものような名司会者振りを発揮してくれた堀越昌樹さん(昭和62年法律卒)の音頭で、校歌や応援歌の斉唱もあり、懇親会は大いに盛り上がった。

(事務局長 原柳作)



平成28年 懇親会の様子を写真で紹介します



出席者の感想

新しい会員及び今まで挨拶が出来なかった諸先輩と楽しく歓談が出来ましたので、とても充実した懇親会とすることができました。(T.H)



名司会ぶりで懇親会を盛り上げた堀越昌樹さん



㊦より伊藤文保さん、村田龍也さん、小林孝吉さん、柳澤剛さん、鈴木和夫さん



㊦より校友課の栗林健二さん、西脇幸二さん、石井香さん



㊦より田原清彦さん、轟田俊秀さん、吉川優也さん



㊦より武笠健次さん、中山廣男さん



㊦より浜付朋武さん、的早海さん、石渡卓さん、佐藤宏司さん



㊦より江尻二十三さん、青木猛さん



㊦より鈴木稔さん、有川貢司さん



初参加の㊦より馬場さん、平野さん、韓さん、菅野さん、豊岡梨奈さん、永沼知之さん、雨宮洋子さん、川名結さん (氏のみは学生)



初参加の㊦より吉富秀一さん、古敷谷均さん、原游さん



出席者の感想

毎回のご盛会で楽しく過ごさせていただきました。(T.I)

## 〈記念講演〉

『内村鑑三と日本近代—明治を生きた人たち』  
神奈川大学常務理事 小林 孝吉 氏



記念講演する小林孝吉氏  
2016年1月31日(土)  
於セントラルホテル横浜

### ▽小林氏より寄せられた講演概要です

日本近代のはじまる明治時代、その歴史の転換期に、新しい日本をつくるために懸命に生きた人たち—それは明治維新から150年経った現代まで、多くの人を引き付けてやまない。朝ドラ「あさが来た」から、昨年の大河ドラマ「花燃ゆ」まで、そんな日本近代の新鮮な息吹が伝わってきます。

なかでも、明治元(1868)年に小田原藩医の家に生まれ、10代半ばで自由民権運動に挫折し、25歳で夭折した詩人・北村透谷と、明治維新の7年前の万延2(1861)年に高崎藩の武士屋敷に生まれ、明治10年クラークの教えた、札幌農学校に2期生として入学し、キリスト教と出会い、渡米後、二つの「J」(イエスと日本)に生きた宗教者・内村鑑三。西洋化する大きな転換期の明治を生きた2人の生涯は、「3・11」という困難に直面した現代に、夜空の一点星のような希望の光を投げかけています。そのことを私は、新著『内村鑑三—私は—基督者である』(2015年 御茶の水書房刊 A5変形判 404頁)にまとめました。

この2人は、日本近代とキリスト教とぶつかり、透谷は西洋文明化する日本に表層的な変化を見て失望し、内村は日本のキリスト教、教会が外国の宣教師のもとにあることを厭い、空を天井に緑の地を床にした天然の教会を求めた無教会信仰の立場に立ちました。

透谷は、『楚囚之詩』、『蓬萊曲』などの詩や評論を遺し、わずか25歳で自ら死を選びます。一方、内村は日清・日露戦争のあった明治、第1次世界大戦の大正、満洲事変の前年の昭和5年まで、69歳の生涯を一キリスト者、伝道者としてまっとうします。

内村鑑三は、最初のキリスト教思想書『基督信徒の慰』から、英語で『代表的日本人』を刊行し、新日本の創設者・西郷隆盛、民に慕われた封建領主・上杉鷹山、農民聖者・二宮尊徳、村の先生・中江藤樹、仏僧・日蓮など、日本を代表する人物を、海外に向けて紹介しました。

また、内村には33歳のとき箱根山頂で行った有名な講演「後世への最大遺物」があります。それは頼山陽が13歳のときにつくった漢詩の一節である「天地無始終、人生有生死」(天地には始終がないが、人生には生死がある)からはじめて、そのなかで自分にある一つの「願い」、「清い怒」について語っています。それはこの50年の命をくれた美しい地球に、社会に、山や河に、この世に生きた記念に何を遺したらいいだろうかということです。

彼はお金、社会事業、思想の著述もそれぞれ大事な遺物ではあるが、だれでもが遺すことができる最大遺物とは、この涙の谿のような世の中を、絶望と悲しみではなく、希望と喜びの世として真面目に生きる生涯だと、青年たち聴衆に語りかけました。それこそが後世への最大遺物であると。

草創期日本という日本近代を生きた内村鑑三は、津波による2万人近い死者と原発事故の重なった東日本大震災以後、この大きな困難のなかにある現代に、私たちに、未来への希望を伝えています。

### 講師経歴

1953年長野県生まれ。明治学院大学文学部卒。学校法人神奈川大学事務局長を経て神奈川大学常務理事。文芸評論家。著書として「椎名麟三論—回心の瞬間」(菁柿堂1992年)、『島田雅彦〈恋物語〉の誕生』(勉強出版2012年)。「埴谷雄高「死霊」論—夢と虹」(御茶の水書房2012年)など。

### 出席者の感想から

・私は今まで、内村鑑三について詳細は存知していなかったのですが、今回、小林先生の講演を聞き、理解をすることができました。宗教や歴史、その関連性や意義、現代にも通じるものがあり、大変勉強になりました。(T.H)

・地道な研究活動に敬意を表します。何回にも分けてお話を伺いたいと思います。明治時代が、どの様な時代であったのか興味をもちます。(T.S)

## 箱根駅伝応援記

関東学生陸上競技連盟が主催する第92回東京箱根間往復大学駅伝競走(通称箱根駅伝)が2016年1月2日・3日開催され、今年も我が「三浦半島宮陵会」有志は、「保土ヶ谷・旭区宮陵会」有志と共に、JR保土ヶ谷駅で連日、通過の1時間前から準備をし、花の2区・9区の応援を行ないました。当日ご参加の皆様、ご苦労様でした。

今大会総合優勝は青山学院大学(10時間53分25秒)で2年連続2回目。神大は11年ぶりのシード権獲得を目

指しましたが、総合13位〔往路15位・復路12位(11時間20分7秒)〕でシードまであと5分と届かずに涙を吞みました。

神大が優勝した73回大会の総合タイムは11時間14分2秒、74回大会は11時間1分43秒で、当時に比べ大会は年々レベルアップをしている。勝ち抜くには、駅伝の基本である「一人一人が1秒を大切に」という気持ちで襷をつなげるという、日頃の練習から鍛えられる気持ちの強さが求められるのではないだろうか。

全国(とくに島根県出雲)で待ち望んでいるOBの為に、来年こそ頑張ってもらいたい。(塩塚記)



保土ヶ谷駅前神大応援ポイントに於いて2016.12

## 三浦半島宮陵会同好会通信

世話人が紹介します

### ●ゴルフ会世話人:中川六郎(昭和44年経済卒)

メールアドレス: nakaroku@jcom.home.ne.jp



連絡先: 090-9003-2499

第28回三浦半島宮陵会オープンコンペは、2015年11月20日(金)、市原京急カントリークラブで7組26名の参加者を得て、開催することができました。

多数のご参加ありがとうございました。

スタート前から時折、雨模様でありましたが、プレイに支障が出る雨量ではなく、全員、ホールアウトしました。

優勝は、同クラブの箕輪社長、準優勝は、バスクロ88で参加2回目の萩原氏、3位は加藤氏(田原さんの友人でした)。

ドラコンは常連の土屋氏、箕輪社長、ニアピンは齋藤元副官房長官、萩原氏でした。

次回29回のオープンコンペは、本年3月25日、葉山国際C.C.エメラルドコースで開催します。当日幹事は、箕輪社長、原事務局長になります。

最後になりましたが、田原さんのご友人の加藤さん、寺澤さん、上野さんの3方、初めてご参加いただきありがとうございました。



市原京急カントリークラブに於いて2015.11.20

### ●テニス会世話人:小池邦夫(昭和38年機械卒)

メールアドレス: kichiemu@mbj.nifty.com



連絡先: 090-8811-5079

当会発足以来のメンバーの角谷彰さん(昭和37年電気卒)が昨年暮れに逝去されました。謹んでご冥福をお祈り致します。

氏は電力会社で卒論をまとめ、三菱電機に就職して本社配属となり、職場で同期のテニス選手と組んで事業所対抗に優勝したとのことです。

晩年は多少足が不自由な様子でしたが、時々見せるボールに若い頃の片鱗が伺われました。

飄々としながらも温和な仲間を失って淋しい限りです。年初には、錦織選手が奮闘している全豪オープンをテレビで観戦しました。もちろん及びもしませんが、大きいストロークと俊敏な動きをイメージして、当会は今年も研鑽に努めるつもりです。

また夏には、恒例の合宿を計画しています。新入会員大歓迎です。もちろん、ビールと談論風発のアフターは欠かしません。アフターのみのご参加も歓迎します。



葉山のラベラ・テニスクラブに於いて2016.2.15

●歩こう会世話人:若林秀明(昭和39年経済卒)

メールアドレス:w-hideaki@mvd.biglobe.ne.jp

連絡先:090-3220-1479



昨年12月12日(土)に鎌倉の紅葉名所として、錦秋の奥谷戸から瑞泉寺へと散策し、7人の方が参加しました。

前日に降雨となり、散策道はぬかるんでいる箇所もありましたが、幸い天候には恵まれ、山頂では富士山を眺め、ゆっくりと昼食を摂ることができました。

紅葉がきれいでもあり、旧跡を見ながら散策し、最後は瑞泉寺境内をめぐり、予定通り終了しました。

その後参加者一同、居酒屋で疲れを癒やししながら親交を深め有意義な一日となりました。

今後も計画をしてご案内致しますので、お問い合わせのうえご参加ください。



紅葉の鎌倉に於いて 2015.12.12

●つり会世話人:塩塚定雄(昭和48年貿易卒)

メールアドレス:shiozuka@aria.ocn.ne.jp



連絡先:090-5581-1043

昨年10月9日、第1回つり同好会を会員の小池さんの親戚で葉山あぶすり港の船宿「与兵衛丸」を利用して開催し

ました。あいにく参加者は私1人でしたので、仕立て船ではなく乗合船に乗船。小池さんの息子さんも乗船してくれ、手解きもいただき、楽しいイナダ釣りとなりました。

天候にも恵まれ、大きめのイナダが2本と操舵カツオが釣れました。船頭さんも親切で、この日に乗船した人で坊主はいませんでした。

今回は下見も兼ねての参加でしたが、春になりましたらまた企画しますので振るってご参加ください。

〈わか社・わか店・わか商品〉

県立観音崎公園パークセンター(管理事務所)

パークセンター 砂川 正夫(昭和44年経済卒)



明治31年に竣工した旧日本陸軍の火薬庫が、平成28年1月4日に県立観音崎公園パークセンターとして生まれ変わりました。

パークセンター(延床面積188平方メートル)の建物は、

日清戦争の後、明治31年に旧日本陸軍が、東京湾要塞の観音崎砲台の火薬庫として整備したものです。

構造は、木骨レンガ造(建物の重量は主に木骨で支え、壁をレンガ積みとする構造)の平屋建てであり、屋根部分はキングポストラス(中央に真束とよばれる垂直材を持つ山形トラス)とよばれる木造の洋小屋組、基礎部分は地盤面に通風性の良いレンガアーチが連続しており、火薬を保管するため、防湿性などの工夫が凝らされています。

平成23年までは、建設当時のレンガ壁面にモルタルを塗り、白壁に改修され、観音崎青少年の村の集会室などとして利用されてきました。

このたび、パークセンターとして利用するにあたり、歴史的建造物の価値を最大限活かし、白壁をはがし、レンガ壁を再現・補修するとともに、現在の耐震基準を満たすように柱・梁の補強や新たにスロープを設置するなどの改修を行いました。

パークセンターで使用されているレンガ

(積み方) イギリス積

(数量) 約111,000個(外壁壁約27,000個・基礎部84,000個)

(大きさ) 長手225ミ×小口110ミ×厚さ55ミ

現在の一般的なレンガは210ミ×100ミ×60ミ

(壁厚) 長手面の1枚分約225ミ

パークセンターの使用レンガは、刻印からすると、横浜瓦斯局跡地(現横浜市立本町小学校)から出土したものと類似。レンガの積み方は、明治10年代までのフランス積みと明治20年以降に主流となったイギリス積みに大別されます。フランス積みは造られた時期が早かったため、国内で現存するものは、猿島要塞など数例です。

(パークセンター案内)

横須賀市鴨居4-1262 TEL046-843-8316

京急バス停「観音崎」下車徒歩3分(旧青少年の村)

開園時間 9時～16時、12/29～1/4 及びイベント時を除き見学自由



〈他地域宮陵会の紹介〉

### 横浜北宮陵会

事務局長 小野 久雄 氏 (昭和40年貿易卒)

横浜北宮陵会事務局長で武道歴豊富な市川派剛柔流空手道教士7段、武備士継承者、剣道4段の小野久雄さんから、地域組織や卒業後の活躍、学生時代の思い出など、その豊富な経験をお寄せいただきました。



◇神大横浜北宮陵会について  
本会は平成19年春、初代渡邊武会長が中心となり、横浜市青葉区、緑区、都筑区の神大OBを招集して設立した組織です。

現在会員は47名で構成しています。主な活動は①役員会年4回(1、4、8、10月)開催。②定時総会(5月)開催。③箱根駅伝の応援(1月)。④鶴見川河川敷清掃(10月)。⑤神大箱根寮宿泊旅行(11月)。⑥神大教授による文化・教養講座及び忘年会(12月)です。

◇自己紹介

①経歴 私は、福島県の中通りにある福島飛行場と牡丹園のある故郷、福島県須賀川市の出身で、現在は青葉区役所の近くに住んでいます。

神大卒業後、伊藤忠商事に入社し、主に財務部やエネルギー・化学品部門の管理部に勤務しました。「海上油田開発」のため、アフリカの赤道直下のガボン共和国に約3年間駐在しました。休暇は半年毎に、ヨーロッパで取得しました。

伊藤忠は56歳で退社し、3回転職しました。台湾系の旅行会社のM. S. Tourist Co., Ltd.と横浜の元町にある、明治時代設立のスポーツクラブのYC&ACYokohama Country & Athletic Clubにそれぞれ1年半勤めました。

その後、東京都千代田区有楽町にある外人記者クラブ(日本外国特派員協会)で8年間、67歳まで勤務し、現在73歳です。

②語学歴 神大の貿易学科ではフランス語の授業を週2回、伊藤忠では週3回、5年間のフランス語講習会に出席しました。ガボンにはフランスの旧植民地で公用語がフランス語でした。石油関係の会議は英語のため、2重言語生活でした。

一方、商業英語が業務上必要だったため、社内の英語講習会で8年間学びました。これは後の外資系転職時には、大変役立ちました。

さらにスペイン語は、社内外講習を4年間受けました。NHKラジオ講座のドイツ語なども、約40年間聴講しています。

③武道歴 ▽柔道 小6から町道場で柔道を始めました。中・高時代は柔道部に所属。神大では1年弱。その後、講道館で柔道を練習しましたが、初段止まりでした

▽剣道 中2から高2の週末に須賀川警察署の道場に通り、2段を取得。神大の1、2年生の時には東神奈川消防署で、また、独身寮時代には27歳まで三鷹警察署で剣道を練習しました。62歳からは剣道を再開し、丸の内警察と誠道場に通り、4段を取得しました。

▽空手 柔道から空手に転向して、18歳頃から糸東流空手を始め、2段を取得しました。34歳で剛柔流空手を再開し、10年前に教士7段を取得しました。今なお現役で頑張っています。



神奈川大学横浜北宮陵会の皆様

### 一般社団法人宮陵会の近況

副会長 古川 勝彦 氏 (昭和40年経済卒)



日頃から母校、そして宮陵会に温かいご支援ご協力賜り厚く御礼を申し上げます。

私は平成27年6月6日の一般社団法人神奈川大学宮陵会の定時総会で副会長に推

挙げられました。それまでは三浦半島宮陵会の会長（旧支部長）を発足時から約10年務めました。この宮陵会副会長就任を機に地域組織である三浦半島宮陵会では会長職を辞し、顧問職に就きました。

## 宮陵会の近況を報告します。

### ▽組織について

組織は、本部、地域組織、職域・同期・同好組織に分かれていて、地域は86、職域は23、同期・同好は31あります。卒業生の総数は205,519（このうち住所の判明者は99,922）、準会員（学生）は17,989、合計223,508です。このうち住所のわかっている会員が5割弱というのが問題です。判明者数を拡充するために母校、宮陵会、各学部、ゼミ組織などが協力してその垣根をなくし、情報の共有化を進め、体制強化のために強い意志を持って取り組むことが目標で、目下目を光らせているところです。

本部の重点課題は、本部に置かれた総務規程委員会、組織委員会、広報委員会、事業委員会、女性委員会の5組織の活動の充実です。

### ▽現在取り組んでいる事業

①平成29年度に創立80周年を迎える宮陵会の記念事業の策定及びその推進です。

②長年の悲願であった宮陵会館の建設は、大学当局の具体的な取り組みが始まりました。宮陵会本部内に建設計画に対応する特別委員会を設置して、より良い会館運営ができるように検討を開始しました。

③若年層や女性層の各種イベントへの参加促進や在学生である準会員に各地域組織の認知度を向上させるなどのPR活動を強化。また、各地域組織のホームページの立ち上げやその内容充実への支援活動を行う。

④神奈川県ブロックの立ち上げ。全国には北海道から九州までブロック化されていますが、神奈川県内には18の地域組織があり卒業生が4万5千人いるにもかかわらず、ブロック化されていませんでした。昨年10月31日の神大フェスタ開催に合わせ、神奈川県ブロックを立ち上げました。

### ▽最近よく耳にする声

①「オール宮陵会ひいては母校神奈川大学の発展と輝かしい未来」を実現するために、ハード、ソフト面の充実と強化。

②法科大学院の学生募集停止後の方向性。

③宮陵会の地域組織などと大学就職課の連携により学生の就職支援。

④課外活動については、同窓生に感動、夢、力を今以上に与えて欲しい。

宮陵会本部としては、各地域組織の皆さんの声を委員会活動に反映させ、地域組織の活性化を図り宮陵会全体の発展に寄与できればと考えています。また、ネットワークの構築や情報の共有化を促進し、取り巻く環境を夢と希望のあるものに近づけたいと考えています。

そのためには、一日一日が大切です。1年、5年、10年はあっという間に過ぎてしまいます。昨日より今日、今日より明日。日進月歩の状況を認識し、波及効果を狙いつつ、計画性をもって前進する環境を作り上げ、本部と地域組織が連携を強化するために皆様のご理解とご協力をお願いいたします。そのために皆様の力、頑張りが必要なのです。

宮陵会本部の副会長とはいえ心の故郷は三浦半島にあります。三浦半島宮陵会の益々のご発展と会員の皆様のさらなるご活躍を祈りつつ、今後とも本部活動へのご支援ご協力をお願いします。

## 本会HP(ホームページ)の紹介



江戸親より  
酒の肴なり  
梅の花  
邦夫

神奈川大学三浦半島宮陵会のHPでは、会のお知らせ、会員からのお便り、終了した会合の報告等が掲載されています。

現在会員からのお便りでは小池邦夫さんから頂いた俳句と切り絵の作品を掲載しています。

小池さんのお便り

今月より、「三浦半島の四季おりおり」と題した会員参加のお便りを企画していますので、三浦半島の各地で撮影した写真とコメント(撮影日時・場所・一言、8頁参考)をお寄せください。送り先は s.shiozuka@aria.ocn.ne.jp です。

投稿していただいた作品は、毎月中旬頃HPにアップし、ご紹介したいと思っています。

また今月からは、最新の本会報も閲覧できるようにしました。現在はHPのご報告・支部開催行事から「三浦半島宮陵会報第20号発行」をクリックすると、昨年9月に発行した会報第20号(全8頁)がご覧になります。ご覧になりたい頁を更にクリックすると拡大します。

今後とも魅力のあるHPとしていきますので、是非ご覧ください。また、連絡(お知らせ)等もご活用くだされば幸いです。アドレスは『神奈川大学三浦半島宮陵会』で検索してください。(広報担当：塩塚定雄)

## 会費納入のお願い

年会費の振込をお願いします。本年度(H28.3)分まで及び未納者には郵便の「払込取扱票」を同封しました(氏名は未記載です)。振替手数料は支部で負担いたします。

●郵便振替受入口座：久里浜支店

00290-5-95815 神奈川大学三浦半島宮陵会

●横浜銀行口座：久里浜支店 普通預金

1747984 神奈川大学三浦半島宮陵会

●年会費は年間3千円、4年間前納は1万円です。

75歳以上の会員は1万円納付で終身会員です。

※神奈川大学三浦半島宮陵会(当地域組織)の活動は、年会費で運営しています。宮陵会本部の会費とは異なりますので、ご注意ください。

(会計担当：若林秀明)

## 年会費納入状況(平成28年3月1日現在)

### 〔平成27年度分まで納入済〕

(鎌倉) 川瀬 元夫、小田 進一、山岸 一輔  
井口 淳  
(逗子) 長澤 良成、中島 龍彦  
(葉山) 米田 光男、小池 邦夫  
(横須賀) 石井 一男、塚田 尚、菊池 武  
篠原 久恒、市川 國男、奥野 晶洋  
久保田宣彦、名取美佐男、萩原 九  
相原 充、鈴木 和夫、島崎 和久  
伊澤 隆雄、江尻二十三、鳥海 洋義  
鈴木 三郎、鈴木 伸夫、二井美恵子、  
川口 好孝、吉富 秀一、久根口昭二、  
堀越 昌樹、箕輪 義夫、田中 弘  
寺西 厚、高橋 圓、浜付 朋武  
(三浦) 源代 价克、塩谷 宏之

### 〔平成28年度分まで納入済〕

(鎌倉) 小永井 潔、金澤 優太  
(逗子) 青木 猛  
(横須賀) 大倉 匡光、芝崎 元晴、轟田 俊秀  
武井 利徳、青山 隆一、永野 茂  
石渡 卓、長島 保雄、南雲 忠男  
金野 義勝

### 〔平成29年度分まで納入済〕

(鎌倉) 若林 秀明、石井 和行、古川 勝彦  
(逗子) 岸本 光瑞、深津 敏夫  
(横須賀) 落 勝廣、結城 康雄、長谷川征勝、  
金井 昌孝、熊澤 勝喜、砂川 正夫、  
森下 守久、鈴木 稔、嶋田 晃、  
塩塚 定雄、舟崎 学志、渡邊 健、  
内藤 正久、佐久間克己、工藤 真也、  
伊藤 文保  
(三浦) 石渡 大輔、原 柳作

### 〔平成30年度分まで納入済〕

(鎌倉) 矢澤 基一  
(逗子) 田原 清彦  
(横須賀) 佐々木修蔵、嶋田 順子、松岡 和行、  
三縄 義和、佐藤 範弘

### 〔平成31年度分まで納入済〕

(横須賀) 西脇 幸二、原 游、稲垣 茂

### 〔終身会員として納入済〕

(横須賀) 八嶋 政臣、中山 廣男、村田 龍也  
合計：86名

### ～編集後記～

会報21号をお届けいたします。本号より誌名を正式名称である“神奈川大学”を入れて「神奈川大学三浦半島宮陵会だより」に改題させていただきました。

本号では、1月31日に開催された神奈川大学三浦半島宮陵会・新年会の模様を掲載しました。

同時に開催された記念講演会では、小林孝吉氏に「内村鑑三と日本近代—明治を生きた人たち」と題して講演していただきました。本会事務局長の原さんを通じ、神奈川新聞紙上にも告知して頂き、会員以外の地元を含め70人に聴講していただき盛会となりました。今後ともよろしくお願い致します。(塩塚)



2016.3.1 横須賀長井海の手公園ソレイユの丘・菜の花越しに富士山を望む